

## よく考え，すすんで学習する子供の育成

～「活用学習」と「学級力向上」をもとにした言語活動の充実を目指して～

### I 主題設定の理由

昨年度の研究は，山梨市学力向上推進委員会の考えを元に，本校の算数科の課題である，筋道をたてて考える力，記述して説明する力，判断する力を身につけるための手だてとして活用学習を取り組んできた。さらに確かな学力を支える手だてとして学級力向上の取組も研究してきている。今年度は，昨年度の研究の成果を生かし，さらに本校の課題もふまえて，言語活動の充実を進めるために学級力向上プロジェクトを全体研究として取り組み，新しい「学習指導要領」に対応した算数科を中心とした活用学習の教材化に取り組むことにより，テーマに迫ることとする。

### II 研究仮説

学級の学習環境を整えることと活用学習の場面を設定することで  
言語活動を充実させ，よく考え進んで学習する子供が育成できるであろう。

### III 研究の具体的な内容と方法について

#### 研究（１）学級力向上に向けた研究

- ①学級力向上プロジェクトについての学習会
- ②学級力向上を活用した実践（全学級）
- ③学級力向上を活用した実践交流（全学級）
- ④ＱＵを生かした学級分析と省察

#### 研究（２）活用学習

- ①活用学習についての学習会
- ②活用学習の教材化
- ③活用学習の授業実践

### IV 研究実践

#### 1 学習会

「学級力向上プロジェクト」

講師 早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之 先生

#### 2 検証授業

- (1) 第6学年2組 算数科授業実践「割合の表し方を考えよう」比と比の値  
授業者 若月敬二郎
- (2) 第1年1組 国語科授業実践「じどう車ずかんをつくろう」  
授業者 丸山 英子

#### 3 学級力ミーティング

- (1) 第2学年1組 学級活動授業実践「学級力向上プロジェクト」  
授業者 中村 悦美

(2) 第5学年1組 学級活動授業実践「学級力向上プロジェクト」

授業者 高野 栄子

4 一人一実践(授業改善プラン)

算数科(3, 4, 5, 6年) 国語科(1, 2年) 理科(5年)

自立活動(1, 4年) 保健指導(全校)

5 ミニ実践講座(実践例)

- ・ICTを利用した身近な郷土資料の教材化
- ・相手も自分も大切にした言葉で伝えよう
- ・アートカードを使ってみよう
- ・英語科と英語活動について
- ・ディベート指導について
- ・音読の工夫
- ・甲府盆地の条里制
- ・これなら描ける! 楽しい人物表現
- ・山梨県のアクセントと全国のアクセント
- ・自立活動にかかわる実践
- ・日常の音楽指導のヒント

V 成果と課題

1 成果

研究の成果については、学級力向上プロジェクト、活用学習についての理論研究、ブロック研究をもとに2回の検証授業、学級力ミーティングを実施できたことは大きな成果である。

活用学習については先行研究を基にブロック長を中心に理論研究、教材研究を行い、活用学習の考え方を校内研究に広げることができた。テーマにある言語活動の充実という視点に立ってみると2つの検証授業の中にも多くの書く活動を取り入れ、子供たちが自分の考えを書き、説明する活動を行う様子からテーマに迫ることができたと考えられる。

学級力向上については、早稲田大学の田中博之教授を招聘し、理論研究、教材研究を取り組むことができた。合わせて、2学級の学級力ミーティングを行い、学級力ミーティングを用いた、学級分析の手法を学んだ。また、学級力向上のための手だてについて共通理解をはかり、多くの学級において検証することができた。

2 課題

研究の課題については、学級力向上プロジェクトの更なる充実があげられる。学習への取組の更なる向上を求める上で必要なことだと考えるからである。さらに学級力向上プロジェクトの考え方を定着させていきたい。

また、活用学習においても、パイロットスクールの財産を生かし取り組んできていて、2年間の研究の結果、十分に活用し、検証を積んできている。この財産をさらに山梨小の研究の成果とするために活用学習の他教科への波及と日常の授業への活用、新しい教科書への対応を考えていく必要がある。

(研究主任 日原 英二)